

平成 29 年度 第 1 専門技術群(工作・運転系)技術職員研修 (京都における「ものづくり」に関わる工場見学研修)の実施報告

○西崎 修司, 多田 康平
京都大学大学院工学研究科技術部

1. はじめに

「ものづくり」とは、単純作業での製造ではなく、特に職人などの手による高度な製造を意味する。京都は、業歴100年以上の「老舗企業」の出現率が全国トップクラスであり、京都における「ものづくり」には、伝統文化を守り、新技術を導入し、それらを融合する土壌がある。京都における「ものづくり」の知識、および関連技術を習得する為に、平成 29 年 11 月 24 日(金)に、京都機械工具株式会社(KTC)、三菱自動車工業株式会社 京都製作所 京都工場、最上インクス株式会社の工場見学研修を実施し、12名の技術職員が参加した。この研修について報告する。

2. 京都における「ものづくり」に関わる工場見学

京都機械工具株式会社(KTC)は、生産される工具の品質の高さに定評がある。事業場内の至る所で整理整頓が徹底されており、安全に対する意識が隅々まで行き届いていたのは象徴的だった。最新技術の導入により故障や事故を未然に防止できるよう進化した工具の開発など、予防保全・安全作業を目指した「ものづくり」に感銘を受けた。

三菱自動車工業株式会社 京都製作所 京都工場は、自動車用エンジンを生産している工場である。環境負荷の低減に関する教育やその意識の高さは、市街地の広大な土地に建設された工場において、とても優れていると感じた。ロボットによりエンジンをほぼ無人で製造する光景は、未来の「ものづくり」が想像出来て非常に興味深かった。

最上インクス株式会社は、製品試作や薄板金属加工技術などの「ものづくり」に優れた企業である。独自の「簡易金型システム」により、試作部品を短納期・低コストで製造し、様々なニーズに対応出来る技術力は、目を見張るものがあった。また、金属加工により精密に作製された極小の蟻や昆虫の形を模した作品は素晴らしかった。

3. 結果と考察

事前に質問事項を見学先に送付しておいたことは、質疑応答の時間が有効に活用できたので、とても有益だった。研修の感想として、「見学先の業務改善や安全教育などを参考にして、今後の業務に活用出来る。」などがあり、概ね好評であった。一方で、スケジュールにあまり余裕が無かった為、全体的にあわただしい研修となってしまった。

日本における技術者の立場についての質問に対しては、関連する文献 [1] を紹介して頂いた。この文献は、我々技術職員の立場を省みる資料としてもとても役立つものである。企業が求める人材についての質問に対して、「コミュニケーション力の高い人」や「自分の判断で行動できる人」などを挙げられた。大学の技術職員にとっては、これらの能力をもち「ものづくり」に貢献できる人材を育成すること、いわば「ひとづくり」が重要な課題となることを再認識した。

4. まとめ

研修では、京都における「ものづくり」の現場を見学できて、とても興味深かった。「ものづくり」とは、新しい価値の創造であり、他の追随を許さない唯一無二の技術力である。日本には、環境破壊を引き起こす断絶社会ではなく、自然の恵みに感謝し、共存共栄を目指す継続可能な伝統技術がある。我々技術職員も守破離の精神に則った「ひとづくり」に勤しむことで、日本にしかできない「ものづくり」技術を活用した持続可能な伝統技術に貢献できると考えられる。

研修に対応して頂いた京都機械工具株式会社(KTC)、および三菱自動車工業株式会社 京都製作所 京都工場、最上インクス株式会社の皆様には、大変お世話になりました。厚く御礼を申しあげます。ありがとうございました。

参考文献 [1] 松久寛,「技術者の地位向上」,日本機械学会誌, 120 (1186), 46 (2017).

※本稿は「実験・実習技術研究会2020鹿児島大学 プログラム・報告集」に掲載されたものです。